

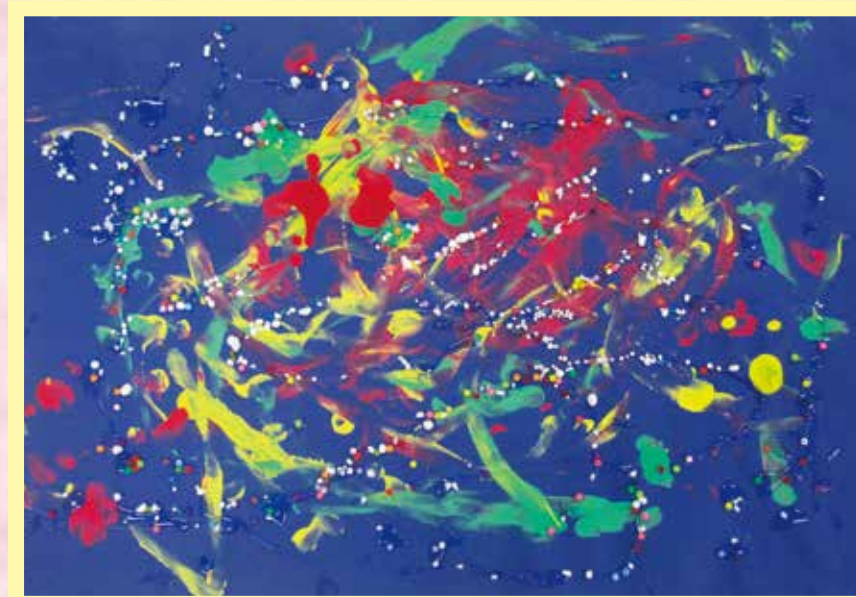
「カンパニオ!仲間とともに」

- 平成29年度岩手県特別支援学校体験記録集 -

第26集



「心をひとつに全力前進」
岩手県立盛岡青松支援学校
小学部4年 萩田 琴葉



「はなび」
岩手県立宮古恵風支援学校
小学部2年 山口 心音

「せかいがひとつになるまで」
岩手県立前沢明峰支援学校
小学部2・3年 共同作品



岩手県特別支援学校連絡協議会
[協力]岩手県特別支援学校PTA連合会
[主管]岩手県立宮古恵風支援学校



「うみ」

盛岡みたけ支援学校 小学部3年
共同作品



「十二支」

盛岡峰南高等支援学校 農産技術科2年
石川 純也



「今にも何かを食べてしまいそうなワニ」

一関清明支援学校 中学部2年
春日谷 望天



「くじら」

盛岡聴覚支援学校 小学部2年
小野寺 琉久斗

※平成29年度岩手県特別支援学校体験記録集タイトル
「カンパニオ！仲間とともに」について

本記録集の表紙絵、文中の挿絵などは県内特別支援学校へ呼び掛け、応募のあった作品の中から選んだものを載せました。

タイトルについては、平成25年度に気仙光陵支援学校からの応募、採用されたものを今年度も使用させていただきました。

カンパニオはラテン語で一緒にパンを分け合う人々、つまり仲間という意味で英語companyの語源となった言葉だということです。

(気仙光陵支援学校より)

目 次

「発行に寄せて」

岩手県特別支援学校連絡協議会	会長	民部田 誠	……………	1
----------------	----	-------	-------	---

「挨拶」

岩手県特別支援学校P T A連合会	会長	稲垣 基	……………	2
-------------------	----	------	-------	---

————— 体 験 記 録 —————

「社会人となって」

岩手県立盛岡視覚支援学校	卒業生保護者	小館香志美さん	……………	3
--------------	--------	---------	-------	---

「憧れの生活」

岩手県立盛岡となん支援学校	卒業生	工藤 瑠香さん	……………	5
---------------	-----	---------	-------	---

「大人への階段を登り始めた自分」

岩手県立前沢明峰支援学校	卒業生	那須 侑香さん	……………	8
--------------	-----	---------	-------	---

「僕のめざすもの」

岩手県立盛岡峰南高等支援学校	卒業生	山下 壱成さん	……………	9
----------------	-----	---------	-------	---

「社会人になって」

学校法人カナン学園三愛学舎	卒業生	中村 美香さん	……………	11
---------------	-----	---------	-------	----

岩手県特別支援学校一覧	……………	13
-------------	-------	----

編集後記	……………	15
------	-------	----

発 行 に 寄 せ て

岩手県特別支援学校連絡協議会

会 長 民部田 誠

本体験記録集は、平成4年度に発刊し、今年で26回目の発行となりました。これまで掲載された特別支援学校（盲・聾・養護学校）卒業生・保護者の体験記録は、多くの方々からご支援、ご共感を得てきました。特別支援学校卒業生、その保護者の想いや体験を広く県民の皆様へ伝え、様々な障がいに対する理解をより深め、障がいのある子どもの就学や社会参加と自立に向けて寄与してきました。

平成26年1月、我が国も「障害者の権利に関する条約」に批准し、すべての人々が互いの尊厳を認め合い、障がいの有無によって分け隔てられることなく、相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会を実現するという目標を世界の人々と共有することとなりました。

昨年（平成28年）は本県において、「希望郷いわて国体」とともに、全国障害者スポーツ大会「希望郷いわて大会」が開催されました。県内の特別支援学校の児童生徒も選手としての参加はもちろん、歓迎のぼり旗や選手への応援メッセージカードの作成、プランター花壇づくり、総合開会式前演技での詩の朗読等、両大会を通じて素晴らしい活躍を見せてくれるとともに、多くの方々との交流が生まれ、互いの絆を深めることができました。

特に、開会式前演技の宮澤賢治の「雨ニモマケズ」の朗読では、花巻市立南城小学校と特別支援学校の子供たちが共演し、感動を与えてくれました。大会当日に向けて朗読練習を重ねる中で、子供たちが障がいの有無を意識することなく、互いを思いやり、絆を深めている姿に、改めて「共に学び共に育つ」ことの意義を感じるようになりました。

今回寄せられました体験記録は、特別支援学校卒業生や保護者の家庭生活、学校生活、社会生活での何れもかけがえのない体験、その時々への想い、願いを綴ったものです。一人でも多くの方々にお読みいただき、特別支援学校の卒業生、保護者・家族、そして障がいのある方々へのご理解がさらに深まり、障がいのある人もない人もお互いを理解し尊重し合う「共生社会」へと繋がることを願ってやみません。

結びに、この体験記録集を発行するにあたり、ご協力、ご支援いただきましたすべての方々に感謝を申し上げ、発行の挨拶といたします。

挨拶

岩手県特別支援学校P T A連合会

会 長 稲 垣 基

岩手県特別支援学校P T A連合会会員の皆様及び、関係の皆様におかれましては、日頃より教育支援と手厚い心配りを賜り誠にありがとうございます。

今年も発行されます「岩手県特別支援学校体験記録集」は岩手県の支援学校の卒業生の「本当の所」の部分が記されています。特別支援学校には、同一障がい種の学校と種々の障がい種の子ども達と同じ学校に通う学校があります。学校生活は、人と人とのコミュニケーションと生徒一人一人の得意分野を伸ばし、苦手分野を克服する反復訓練が続きます。「純粹で素朴な子ども達」というのは、大人のもつ勝手なイメージであり、思春期の青年特有の自分へのいらだちと大人達へ向ける反発、自分を良く見せる見栄っ張りな部分も、体験記の行間には垣間見えるかもしれません。しかし、幼い障がい児の親にしてみれば、先を見通せない一方通行のコミュニケーションが続く日々に、将来のかすかな希望が感じられる先輩の手記はうらやましいエッセイになることでしょう。

事実、成長する力というものは、親や先生の予想を超えており、卒業を迎えた時の我が子、教え子の堂々としたたくましさには、小学部入学時には想像もつかない感激がそこにあります。大学進学する普通高校生より早く社会に出なければならぬ彼らが、社会にとってなくてはならない存在になるには本人の力だけではできません。「共に学び、共に生きる」という聞きざわりの良いフレーズの奥には、私達親と先生も学び、苦勞と感動を共有していく覚悟が求められているのです。

この体験記録集は、特別支援学校作品展の会場に置かれ、多くの方が手に取っていただけるようにしてあります。力作あり、共同作品ありと見ていて楽しい作品群は、日々の学校生活の鏡となり、キラキラと光り輝いています。私はこの作品展を日頃は彼らとは接点のない大勢の方々にも見てもらいたいと考えています。なぜなら、その作品にこめられた思いは、就学前の障がいをもつ子どもの両親や、保育に携わる関係者に希望を与え、進路についての決心のきっかけになる力をもっていると信じているからです。作者にとっても、見られる事が一番の喜びに違いありません。保育園や幼稚園で一緒だったお友達も知っている名前を見つけたら、懐かしい思い出が色々頭に浮かぶことでしょう。この体験記録集も所々に作品の写真が彩りを添え、体験記をより生き生きと装飾してくれています。イラストよりも華が感じられます。

最後になりましたが、発行にご尽力いただいた皆様に心から感謝申し上げます。これからも、P T A活動を通して特別支援学校の教育環境の充実に努力していくことを申し添えて挨拶とさせていただきます。

「社会人となって」

岩手県立盛岡視覚支援学校
卒業生保護者 小館 香志美

娘の知佳は24週の時に598gで生まれました。生死をさまよいながらも一命をとりとめたものの、未熟児網膜症により左目は失明し右目は眼鏡をかけても0.2しか見えません。

4歳の時、網膜剥離の手術を福岡大学病院で行いました。その時に知り合った広島の方から盲学校で訓練している子どもの話を聞き、ネットで岩手県立盲学校を探しメールを送ってみました。すぐに盲学校の先生からメールが届き、幼児教室に通い始めました。その時に出会ったT君は、全盲でありながら指で場所を探してピアノでキラキラ星を弾いてくれました。とても上手で素晴らしく、知佳にもやらせたいと思いました。先生方もみんな優しく、バス時間まで一緒に遊んでくださったり、小学校入学後も突然の訪問にも関わらず時間を割いて対応してくださいました。

そして、高校も盲学校（視覚支援学校）にしました。最後の決断をしたのは知佳でした。知佳の記憶の中にはT君しかなく、そのT君も亡くなってしまっており、淋しいスタートでした。15歳で親元を離れるのは辛かったのでしょうか。初日の帰り際、「まだ帰らないで。」と涙を浮かべていました。そんな淋しい心を優しく包んでくださったのが寄宿舎の担任となった先生でした。

クラスメイトは1つ上のMさんで、人懐っこくたくさんおしゃべりをして先生方とも一緒に笑い楽しい高校生活をスタートできました。

それでも、3年の間には様々な心の葛藤があったようです。

以下は知佳の現在の思いです。



3年間親元から離れて寄宿舎で生活した
最初は緊張や不安もあった
慣れて来ると友達や先生たちと話せるようになった

たくさんの思い出も作れた
部活、色々な行事
数えきれないほど たくさん話して 笑ったりもした

3年間たくさん葛藤もあった
相手にうまく伝えることができなかつたり
すれ違ったり たくさん悩んだり

悲しいこと 苦しいこと 辛いこと
イヤなことだけじゃなく
楽しいこと 嬉しいこともあった
その時に先生たちや友達が支えてくれた
先生や友達に出会えたことも とても嬉しい
みんなに助けられて 乗り越えることができた
だから頑張っただけ

そして4月から社会人になった
最初は楽しく優しい感じだった職場の雰囲気
突然厳しくなったり
頑張ってるのに頑張れって言われて
辞めたくないのに辞めてもいいって言われて

頑張ってる思いをわかってもらえなかつたり 伝わってなくても
応援してくれる人 支えてくれる人
悩みを聞いてくれる人 心配してくれる人たちがいるから？

今は辛いけど
この時期を頑張っただけ乗りきればきっと大丈夫って思う



元々自分の思いを伝えるのが苦手で、職場では委縮して「はい。」しか言えず、見えないとも言えず、苦勞しているようです。

でも、「辞めたいのか？」の一件から、勇気をふり絞り、見えないことを告げ、職場の方のフォローもあり、続けて仕事に通っています。

また、先生方、先輩方、友達からのなぐさめも明日へのやる気につながっています。

視覚支援学校でも、心を開くまで1年かかりました。この職場でも心を開けるまで時間がかかりそうですが、少しずつ少しずつ心を開き、コミュニケーションをとっていけることを願っています。

「 憧 れ の 生 活 」

岩手県立盛岡となん支援学校
卒業生 工 藤 瑠 香

私はこれまでずっと、普通の女の子の生活に憧れをもっていました。朝好きな時間に起きて好きなことをし、好きなものを食べる。放課後はカラオケに行ったりカフェでお茶したりし、夜は遅くまで友達とおしゃべりをする。健常者にとっては当たり前の生活に、私はとても憧れていました。障がいがあると当たり前の生活さえ送ることができない。それは仕方がないことだ。そうやって自分を納得させ、悔しい思いや悲しい思いになるべく気が付かないようにしていました。でも、私はどうしても諦めることができませんでした。「これまでの時間を取り戻したい。同年代の子たちが経験していることを、私も経験したい。」そして昨年4月、周りに背中を押されたこともあり、私は名古屋に来ることを決めました。

名古屋での生活を始めてから、もうすぐ1年半になります。蒸し暑い気候や濃い味が特徴のご飯、言葉や文化の違い。まだまだ慣れないことがたくさんありますが、思ったことが一つあります。それは、いかに人との繋がりが大切かということです。私の障がいは、脊髄性筋萎縮症、略してSMAと言われる進行性の病気です。一人で立つことはもちろん、ベッドから起き上がることも、ペットボトルの蓋を自分で開けることもできません。そんな私でも、ヘルパーを利用しながら一人暮らしをしています。そして日中は福祉的就労ではありますが仕事をし、夜は名古屋モード学園の夜間部に通っています。障がい者の私でもこのような生活ができてるのは、たくさんの人の支えがあるからです。特別支援学校に通っているときから、コミュニケーションが大切だということはいつも言われてきました。そのことを、自分自身の名古屋での生活を通して実感したのです。

例えば、私は重度訪問介護を利用しながら毎日生活しているのですが、その重度訪問介護で来てくれるヘルパーを、私はセルフコーディネートしています。セルフコーディネートとは、いつどの時間に誰に来てもらうのか、自分で直接ヘルパーと連絡を取りながら調整をして来てもらうことです。私は今、月に約15人の方にヘルパーとして来てもらっています。そのほとんどは学生さんです。学生さんはテストや実習、アルバイトなどで忙しく、調整をするのはなかなか大変です。そんな忙しい中でも「大丈夫ですよ。いいですよ。」と言ってくれたり、「この時間なら空いていますよ。」などと言って来てくれたりします。また、学生さんは卒業してしまうので、新しい代わりのヘルパーを見つけなければなりません。そのような場合は特に、普段からの人との繋がりがいかに大切かを感じます。ほかにも、私は普段地下鉄を使うことが多いのですが、地下鉄に乗る際は駅員さんに声を掛け、スロープを用意

してもらいます。そうすると降りる駅で駅員さんがスロープを用意して待っていてくれるのですが、ごくまれに、連絡が上手くいかず降りる駅でスロープを用意されていないことがあります。そのようなときは周りの人に声を掛け2人がかりで車椅子を持ち上げてもらったり、後ろから車椅子を引いてもらったりしながら降りるのを手伝ってもらいます。一人で外出していて突然雨が降ってきた時も、私は自分で傘を開くことができないため手伝ってもらいます。傘を閉じる時も同様です。

これ以外にもたくさんエピソードはあるのですが、以前の私は、見知らぬ人に声を掛けるということがとても苦手でした。人見知りで勇気もなく、できるだけ人に頼らなくてもよい方法を考えて行動していました。そのため、一人で外出するのは少しだけ苦痛でした。でも、今は違います。知らない人に声を掛けて手伝ってもらうことは全然苦痛には思わないし、むしろそこからちょっとした会話までできるようになり、最近では楽しいとさえ思います。学校に行く時もいつも何人もの人に助けてもらいなんとか一人で登下校をしています。「今日はどんな人に助けてもらえるだろう。どんなことがあるだろう。」

私はこの先も、たくさんの人の手を借りながら生きていかなければなりません。病気が進行すればするほど、その量は増えていきます。でもそれを、私は障がいがあるからこその特権だと思っています。人一倍人の助けが必要な分、人一倍人の温かさに触れることができる。私はそのことに感謝しながらこれまで憧れていた同年代の子たちと何も変わらない生活を、ここ名古屋でしています。朝はアラームを無視して時間ギリギリまで寝たり、夜は遅くまで友達とSNSでおしゃべりをしたり。カラオケでオールもするし、休日は映画やショッピングにも行くし、大好きなアーティストのライブや東京に遊びに行ったりもします。おしゃれだって楽しむし、デートだってします。そんな当たり前のように当たり前ではない生活ができていることに、毎日幸せと喜びを感じています。

知らない人に声を掛けられるようになったことのほかにもう一つ、名古屋に来て変わったと思うことがあります。それは、これまでの自分と向き合えるようになってきたということです。私は月に数回中学校や高校、大学や専門学校で、福祉についてや私のこれまでのことについてお話する機会があります。今までだったら、知らない人に自分のこれまでのことを話すということはできませんでした。辛い出来事や悲しい出来事を思い出したくなかったから、向き合わなくてもいいように逃げてきました。でも今は、自分の言葉で自分の思いや考えを話すことに、全く抵抗がなくなりました。年下の子、または同じくらいの年の人にお話をすることが多いのですが、もしかしたら聞いた人のこれまでの価値観が変わるかもしれない。時にはストレートな質問をされたり意見を言われたりすることもあります。偏りなく正しいことを伝えなければいけないので責任の重さも感じます。しかし、日々知識不足に悩まされながらも辛かったこと、楽しかったことを含めこれまでの経験が活かされるということに、とてもやりがいを感じています。

ありがたいことに、AJUにいと全国の障がい者団体が参加する勉強会や、海外の障が

い者運動について知る機会があります。そのような機会を与えてもらっていること、たくさんの人と繋がりを持つことにも感謝をしながら今は少しでも多くのことを学び、自分の将来の選択肢を広げる時間にしたいと思っています。サマリアハウスを出たら今度はどこで生活するのか、どういう仕事がしたいのか。私のペースでしっかりと考えたいです。私は元々、福祉の仕事に就きたいと思っていました。なぜなら、自分の経験を活かせると思ったからです。しかし仕事とプライベートを分けられないことに大きな不安を感じ、昔から興味があったデザイン系の仕事を目指しました。でも、改めて今いろいろな経験をすることによりもっと福祉を勉強したい、もっと福祉をみんなに知ってもらいたいと思うようになりました。人と話すことが好きということも活かしたい。今はまだ模索中ではありますが、迷える状況にいることに感謝をしながら、私なりの人生をこれからも思い描いていきたいと思っています。

「A J U」とは

1973（昭和48）年、車いすの仲間（愛知重度障害者の生活をよくする会）と愛の実行運動（A J U）が出会い、健常者も障害者も共に、誰もが住める福祉の街づくり運動に取り組んできました。1984（昭和59）年、重度障害者の働く場づくりをめざして小規模作業所「わだち作業所」を開設。その後、寛仁親王殿下より「障害者の下宿屋」という御提言を戴き、企画の段階から法人設立、施設建設まで多岐にわたり御指導、御尽力を賜り、1990（平成2）年「A J U 自立の家」がスタートしました。「A J U 自立の家」は重度障害者が市民と共に、地域社会の中で豊かな生活創造を実現するために、3つの機能、

- ・ 持てる機能を活かす場（わだちコンピュータハウス）
- ・ 暮らしの拠点としての場（福祉ホーム・サマリアハウス）
- ・ 地域社会、仲間との交流の場（デイセンター・サマリアハウス）

をまとめ、今までになかった全く新しい福祉の試みにチャレンジしています。最大の特徴は、施設の企画から運営に至るまで、障害者自身が中心になり進めていることにあります。

サマリアハウスは障害があるという理由だけで、人任せで受身の生活を送るのではなく、一人の人として主体的に生きることを実現するための場所です。

【「社会福祉法人 A J U 自立の家」ホームページより抜粋】

「大人への階段を登り始めた自分」

岩手県立前沢明峰支援学校
卒業生 那 須 侑 香

私は、普通中学校を卒業して、前沢明峰支援学校の高等部に入学しました。学校のとなりにあるたばしね学園から弟たちと一緒に学校に通いました。

高等部では新しい友達もできて、充実した生活でした。高等部は作業学習が中心で、1年生の時は縫製班に入りました。手芸が得意だったので、ミシンを使ってティッシュカバーなどを作り、販売しました。2年生からは受託班に入り、校内の床清掃やガラス磨き・資料の製本・先生方の会議の会場作りなどを行いました。

私は、誰かの役に立ちたいという気持ちから、2年生からは生徒会に入り、3年生の時は生徒会長になりました。一番思い出に残っているのは、私達執行部で話し合い、高等部のクラスマッチという新しい行事を立ち上げたことです。自分達で種目を決め、クラス毎に競い合う高校生らしい行事を作れたことは、本当に良かったです。高等部では、今も続いているようでとてもうれしいです。

また、岩手県障がい者技能競技大会（アビリンピック）に2年生と3年生の時に、ビルクリーニング部門で出場しました。2年生の時はメダルを取れずに悔しい思いをしたので、掃除機やモップのかけ方・机の拭き方などを徹底的に練習して、最後の3年生で念願の銅メダルを取ることができました。

振り返ってみると、高等部では、みんなで協力して行事を成功させること、目標に向かって頑張ることを学ぶことができたと思います。

その後、進路に向けて実習を重ね、前沢にある食肉加工販売の岩手フード株式会社に就職することができました。ここでは、牛脂の包装、鶏肉や牛肉のパック詰め、お中元やお歳暮ギフト作りなどいろいろな仕事を行っています。毎日頑張って仕事をして、今では、自分の仕事を早く終わらせ、先輩たちの手伝いもできるようになりました。また少しずつですが、頼りにされるようにもなりました。前沢明峰支援学校の後輩が実習に来る時は、実習生担当として面倒をみる仕事も任されています。プレッシャーに少し弱いところもありますが、学校で教わったことを思い出して、毎日休まず、頑張って仕事をしています。

卒業と同時に水沢のグループホームに入りました。同じホームの利用者の方々と仲良くすることができるか不安でしたが、うまくコミュニケーションをとって生活しています。毎日水沢から前沢まで電車通勤をしています。

これからの夢は、今はまだパートの形態ですが、これから車の免許を取ってフルタイムで働き、ボーナスをもらって一人暮らしをしていきたいです。

私は今年20歳になります。大人として自分の力で自立した生活をしていくために、一日一日一生懸命頑張っていきたいと思います。そして少しですが、弟たちにもお年玉をあげられるようになりたいです。

「僕のめざすもの」

岩手県立盛岡峰南高等支援学校
卒業生 山下 壺 成

学校を卒業したら一般就労して、人の役に立てるような仕事につくということが私の目標でした。そのために、学校生活や寄宿舎での生活を頑張りました。学校、寄宿舎では勉強は勉強、プライベートはプライベートで、メリハリをつけながら頑張りました。

しかし、2年生の時の盛岡市内での前期職場実習では、自分での服薬管理にミスがあり、3週間の実習が2週間になってしまいました。先生のすすめで2年生の後期の実習は、老人ホームで実習することになりました。3週間の自分は失敗だらけでした。だけど、実習先の方には、挨拶や返事、礼儀正しさの点でとても評価していただきました。普段の生活でやっていることが社会人になってとても大事なことだと学ぶことができました。自分の3週間の実習は失敗だらけでしたが、感じたことがありました。それは、自分のしたことで利用者の方から感謝の言葉をいただいて、やりがいをもって実習できたことです。やりがいを持って実習を終えることができ、卒業したら「介護」という仕事で身近な人の役に立ちたいと強く思い、働きたいという気持ちが強くなりました。3年生での職場実習は、2年生の体験としての実習ではなく、地元に戻って就職を意識した実習になりました。実習では介護施設の掃除がメインでしたが、掃除であっても報告・連絡・相談など様々な点で2年生の時より、一つひとつ細かく力を入れ頑張りました。コミュニケーションの部分は初めての実習で緊張感もあり、課題が残る実習となりましたが、2度目の実習もさせていただき、徐々に利用者の方たちとかかわりを持つことができるようになってきました。実習とは別に、在学中に介護初任者研修という介護の資格にもチャレンジし、担任の先生にアドバイスもいただきながら4カ月頑張って取得することもでき、無事就職することができました。

実際に働き始めてからは、失敗したり、自分ではまだまだだなあと思うことがたくさんありました。体力の無さ、集中力、スピード、自分勝手な判断など社会人として足りない部分が多くありました。足りない所が多かったため、自信をなくして気持ちが下がってしまったり、休んでしまったりすることがありました。しかし、職場の先輩方にいろいろな面でサポートしていただいたり、相談に乗ってもらったり、利用者の方にも感謝の言葉をかけてもらったりといろいろな方に支えられてきました。おかげで、失敗したり、悩んでも自分の気持ちを折らずに頑張りが続けることができました。年数を重ねていくうちに、自分のやれること、任せていただける仕事も増え、掃除だけではなく、利用者の方にかかわる仕事も増えてきました。自分が頑張っていることで、職場の方、利用者の方から感謝の言葉をいただくたびに人の役に立っていることを実感していますし、自分の頑張っていることにも繋がっています。

また、自分はスポーツ（野球、バスケットボール等）や会社の行事、懇親会等にも積極的に参加して、プライベートも充実して過ごしています。バスケットボールは2年からずっとやっていて、3年生の時からずっとキャプテンとして練習、大会にも出ていて、今年の岩手

大会にも参加しました。会社の行事では、自分の施設の行事の他、地区のボランティアのごみ集めや二戸祭り、軽米まつりの流し踊り等に出たりと充実しています。そういった余暇活動をすることで、気分転換や息抜きになっています。そのため、仕事にも全力で集中して頑張っています。

そして、僕のこれからの夢と目標です。

プライベートでは、バスケットボールでもっと上手くなり、今度は自分達の力で全国大会に行けるようになることです。岩手大会は開催県として参加できましたので、今度は練習を積み重ねて自分達の力をもっと強くして全国大会の舞台を経験したいです。そして、まだ見ぬ舞台を体験したいです。

仕事では、掃除のこと、介護のこと、どんな小さなことでも人の役に立てるように頑張っていきたいです。そのため、今頑張っている介護福祉士の実務者研修、その先の介護福祉士の資格を目指してスキルアップしていきたいです。そして、今よりたくさんの方のことで、一つでも多く、いろいろな方の役に立てるようにこの先のことも一つひとつ全力で頑張って自分自身を高めていきたいです。

それが、これからの夢と目標です。



「応援」
久慈拓陽支援学校 高等部
共同作品



「dash!!」
気仙光陵支援学校 中学部



「みんなの」
三愛学舎 専攻科1年
遠藤 瑞希

「社会人になって」

学校法人カナン学園三愛学舎

卒業生 中村美香

私は、平成24年4月に学校法人カナン学園三愛学舎に入学しました。あの頃の私は、物凄く緊張していましたが、入学式で出会った友達や先輩、先生方と仲良くなったのですぐに緊張がほぐれました。

本科では、委員会など色々な活動を行い、自分達で意見を出し合ったり、掲示物を作って貼り出したりして様々なことをしていきました。本科で一番頑張ったことは、ランニングを全力で走ったことです。自分自身のベストタイムを更新していくたび、さらに走るスピードやペースに合わせて走っていくようにしてタイムを更新していきました。けれど実は、走るのが凄くしんどかったです。それから、一番楽しかったことは、学校での文化祭と本科3年生の時に、大阪、京都、兵庫の3つの府県へ修学旅行に行ってきたことです。文化祭では、作業で育てた作物や刺繍した小物などをお客さんに見て買ってもらえて全部売った時の達成感は凄く、みんなで喜びました。また、喫茶のウェイトレスをし、お客さんを案内して接客を行いました。修学旅行では、初めて飛行機に乗っていきました。空の景色は最高でした。関西地方に着いて最初に兵庫へ行って南京町や科学館、クルーズ観光などをしました。2日目は、京都へ行って世界文化遺産になった清水寺や二条城を見学し、お土産を買ったりしてきました。3日目は大阪でUSJのアトラクションに乗ったりして、ハリー・ポッターのエリアにも行き楽しみました。テレビで放送された所にも行けて凄く嬉しかったです。

本科を卒業し、その後、私は専攻科に進学しました。花を育てる園芸科でたくさんの花の種を一つ一つ植えて、枯れないように水をまいて育てていくことなどを行いました。専攻科では、毎週木曜日と金曜日にゼミに出て、みんなが思っていることや疑問に思っている話題など、一人ずつ話を聞いて分かり合えることもあって話が大いに盛り上がりました。そのおかげで、今まで自分の知らないところや性格などを知っていくことができ、ゼミに参加して良かったと思いました。専攻科で一番楽しかったことは、北海道の修学旅行に行ってきたことです。昨年3月に北海道新幹線が開通したので、クラスのみなどと一緒に人気の函館へ行き、海の幸を食べたり函館山やレンガ倉庫、教会などの場所へ行ったりしてたくさん思い出を残すことができました。とても楽しい旅行でした。

本科1年生から専攻科2年生までの5年間、私は歌うことが大好きなので合唱部に入部して部長も務めました。部員全員で発表会などに出て、元気良く声を出して歌いました。

卒業後の進路では、自分の性格に合う職場を2、3箇所見学して、その中で鶏肉の加工の職場が私の性格に合っていると思い、職場体験をさせて頂きました。就職するための面接も行い無事に内定をもらえることが出来ました。内定が出るか凄く緊張しましたが、今までの苦労が実を結んだ結果となってとっても嬉しかったです。

そして、私は現在、二戸市にある鶏肉の加工を営む株式会社で働いています。そこでは、切った鶏の部位を串に刺してイオンなどの所へ出荷します。私が頑張っていることは、目標にした本数を維持していくことです。入社当初は、本数が伸びなくて大変だったのですが、工場長さんからのアドバイスで2時間ごとに何本刺したのか頭の中で記憶していくようにし

たおかげで、900本から1000本ちょっとまで刺すことが出来て、私も驚くほど刺せるようになったなあと思いました。

仕事で大変だったことは、決められた重さにしたり肉についている物を取り除いたりするのが大変です。仕事を始めて2ヶ月ちょっとになりますが、少しずつ慣れていって他の従業員の方のように速く刺せるようになりたいと思っています。あと、少し違う串や重さ、届け先が変わるので覚えるのが大変ですが、900本を維持し続けて1000本に届くように頑張っていきたいです。

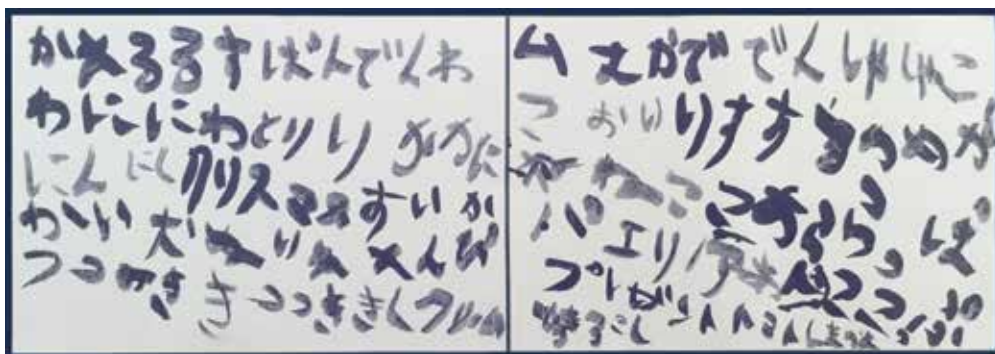
これからは、自分の体調を崩さないように職場に行って働いて給料をもらっていきたいです。三愛で学んだことは色々ありますが、私は特に自分から相談するようにして作業を行うことができるようになりました。学校を卒業した後、今働いている職場でも従業員や上司の方に悩んでいることを素直に話し、仕事を行っています。もしも三愛に入学していなかったら今の私がいらないと思います。将来の夢はまだ考え中ですが、お金を貯めていつか何かを試してみたいです。



「水玉で傘をデザインしよう」
花巻清風支援学校 中学部1年
共同作品



「ば な な」
岩手大学教育学部附属特別支援学校
高等部1年 庄司 健人



「しりとりに」
盛岡視覚支援学校 中学部1年
齊藤 理央

岩手県特別支援学校一覧(平成29年4月1日現在)

※電話・FAX兼用

学 校 名	対 象 障 がい	住 所	電 話 / FAX	幼	小	中	高	専 門	訪 問	舎
もりおかしかくしえんがっこう 盛岡視覚支援学校	視覚	〒020-0061 盛岡市北山1-10-1	(019)624-2986 F 624-3164	○	○	○	○	○	○	○
もりおかちやうかいしえんがっこう 盛岡聴覚支援学校	聴覚	〒020-0403 盛岡市乙部4-78-2	(019)696-2582 F 696-5952	○	○	○	○	○	○	○
もりおかしえんがっこう 盛岡となん支援学校	肢体不自由	〒020-0401 盛岡市手代森6-10-14	(019)623-3907 F 623-3918	—	○	○	○	○	○	○
分教室(県立療育センター内)		〒020-0401 盛岡市手代森6-10-6	(019)652-3637※	—	○	○	○	○	—	—
もりおかせいしよ乳えんがっこう 盛岡青松支援学校	病弱	〒020-0102 盛岡市上山字松屋敷11-25	(019)661-5125 F 661-5170	—	○	○	○	○	○	—
もりおかこども分教室 (もりおかこども病院内)		〒020-0102 盛岡市上山字松屋敷11-25	(019)661-5125 F 661-5170	—	—	○	○	○	—	—
もりおかほらなんこうとうしえんがっこう 盛岡峰南高等支援学校	知的	〒020-0853 盛岡市下飯岡11-152	(019)639-8515 F 639-8517	—	—	—	○	○	—	○
もりおかしえんがっこう 盛岡みたけ支援学校(小中学部)	知的	〒020-0633 滝沢市穴口218-4	(019)641-0789 F 641-8040	—	○	○	—	—	○	—
高等部		〒020-0133 盛岡市青山1-25-29	(019)645-2188 F 645-7301	—	—	—	○	—	○	—
二戸分教室小学部(石切所小学校内)		〒028-6103 二戸市石切所字田尻平4	(0195)23-9633※	—	—	—	—	—	—	—
二戸分教室中学部(福岡中学校内)		〒028-6101 二戸市福岡字下川又22-1	(0195)23-5507※	—	—	○	—	—	—	—
二戸分教室高学部(福岡工業高校内)	〒028-6103 二戸市石切所字火行塚2-1	(0195)23-3722※	—	—	—	○	—	—	—	
もりおかしえんがっこうおおくなみやまこう 盛岡みたけ支援学校奥中山校	知的 肢体不自由	〒028-5134 二戸郡・戸町奥中山字西田子1054-1	(0195)35-3036 F 35-3883	—	○	○	—	—	○	—
はなまきせいふうしえんがっこう 花巻清風支援学校	知的 肢体不自由	〒025-0037 花巻市太田27-207-4	(0198)28-2421 F 28-2089	—	○	○	○	—	○	○
北上分教室(県立中部病院内)	病弱	〒024-8507 北上市村崎野17-10	(0197)68-2091※	—	○	○	—	—	—	—
遠野分教室小学部(遠野小学校内)	知的	〒028-0515 遠野市東館町11-28	(0198)62-3351※	—	○	—	—	—	—	—
遠野分教室中学部(遠野中学校内)	知的	〒028-0541 遠野市松崎町白岩11-30	(0198)62-2211 F 62-2239	—	—	○	—	—	—	—
北上みなみ分教室小学部 (北上南小学校内)	知的	〒024-0051 北上市相去町葛西樋12-2	(0197)72-5910※	—	○	—	—	—	—	—
北上みなみ分教室中学部 (北上南中学校内)	知的	〒024-0051 北上市相去町滝の沢7-2	(0197)72-5920※	—	—	○	—	—	—	—

	学 校 名	対 象 障 がい	住 所	電 話 / FAX	幼	小	中	高	専 門 訪 問 舎
9	前沢明峰支援学校 一関清明支援学校 本校舎	知的 肢体不自由 聴覚・病的 知的 肢体不自由	〒029-4208 奥州市前沢区字田島18-1 〒021-0041 一関市赤荻字上台96-5	(0197)56-6707 F 56-5967 (0191)33-1600 F 33-1601	—	○	○	○	○
10	山日校舎 あすなろ分教室 (独立法人国立病院機構岩手病院内) 千厩分教室(千厩小学校内) 千厩分教室(千厩中学校内)	病弱・知的 肢体不自由 病弱 知的	〒021-0056 一関市山日字泥田山下48-12 〒029-0803 一関市千厩町千厩字北方105-1 〒029-0803 一関市千厩町千厩字上駒場195-5	(0191)25-3210 F 25-2770 (0191)53-2275※ (0191)53-3181※	—	○	—	—	—
11	気仙光陵支援学校 釜石祥雲支援学校	知的 肢体不自由 病弱・知的 肢体不自由	〒022-0006 大船渡市立根町字宮田33-3 〒026-0053 釜石市定内町4-9-5 〒026-0055 釜石市甲子町10-614-1	(0192)27-8500 F 27-8501 (0193)23-0663 F 23-0679 (0193)25-3030 F 25-3036	—	○	○	○	○
12	高等部(釜石高校内) しゃくなげ分教室 (独立法人国立病院機構釜石病院内)	病弱 知的 肢体不自由	〒026-0053 釜石市定内町4-7-1 〒027-0097 宮古市崎山5-88 〒028-7801 久慈市侍浜町堀切10-56-46	(0193)23-0663 F 23-0679 (0193)63-0400 F 64-3617	—	○	○	○	—
13	宮古恵風支援学校	知的 肢体不自由	〒028-7801 久慈市侍浜町堀切10-56-46	(0194)58-3004 F 58-3660	—	○	○	○	○
14	久慈拓陽支援学校	知的 肢体不自由	〒020-0824 盛岡市東安庭3-4-20	(019)651-9002 F 622-3822	—	○	○	○	—
15	岩手大学教育学部附属特別支援学校	知的	〒028-5133 二戸郡一戸町中山字軽井沢49-33	(0195)35-2231 F 35-2781	—	—	—	—	—
16	学校法人カナン学園 三愛学舎	知的							

相談を希望される方のために！お子様の療育や就学、将来の進路等の相談に応じます。いつでもご連絡ください。

岩手県教育委員会事務局 学校教育課 特別支援教育担当	019-629-6143 (直通)	岩手県宮古児童相談所	0193-62-4059
岩手県立総合教育センター 教育支援相談担当	0198-27-2821 (直通) 0198-27-2473 (コスモスダイヤル)	岩手県一関児童相談所	0191-21-0560
岩手県福祉総合相談センター 児童女性部児童相談課	019-629-9604 019-629-9609	岩手県立療育センター内 岩手県発達障がい者支援センター	019-601-2115

【編集後記】

今年も多くの皆様のおかげで、第26集となる「岩手県特別支援学校体験記録集」を発行することができました。

学校生活や家庭生活について丁寧に思い出してまとめていただいた特別支援学校卒業生と保護者の皆様の文章からは、かけがえのない体験の一文字一文字の重さが胸に迫ってまいります。不安な気持ち、つらかったこと、苦難を乗り越えて「自分にもできる」という達成感、体験した方であれば書くことのできない内容で、ぜひ多くの方に読んでいただきたいと切に願っております。そして、表紙や各ページを彩る児童生徒の作品掲載により、生き生きと輝く冊子となりました。どの作品も独創的・個性的で何度も見返してしまいたくなる素敵な作品です。多くの皆様からのご協力をいただいたことに心から感謝申し上げます。

26年前、第1集発刊当時は「岩手県盲・聾・養護学校体験集」という名称でした。長きに渡り物心両面からご支援くださいました日本教育公務員弘済会岩手支部様、そしてひまわり号基金様に対しまして、厚く御礼を申し上げます。平成29年4月に新学習指導要領が公示され、特別支援教育はさらに大きく変わろうとしております。今後ますます「どのように社会と関わり、よりよい人生を送るか」という学びに向かう力や人間性等の涵養が求められるようになるでしょう。そんな社会や教育界の風の流れを受け止めつつ、今年もタイトルの「カンパニオ! 仲間よともに」を継承いたしました。苦しいときも、楽しいときもパンを分け合っていく仲間の大切さ、それは〈あなたとわたし〉という身近な関係から広がっていき、様々な人々がそれぞれの価値を認め合う奥行きの高い〈協働していく世界〉の創造につながるのではないかと思います。

この体験記録集にちりばめられている感動が、多くの人の心に暖かく広がり、明るさが増していく社会形成へのさらなる一歩を願いながら、編集後記とさせていただきます。

岩手県特別支援学校体験記録集作成事務局
岩手県立宮古恵風支援学校
校長 下平弥生



「水仙のスケッチ」

盛岡となん支援学校 高等部3年

熊谷 洋希



「僕の好きな色」

釜石祥雲支援学校 小学部6年

佐々木 凱

「カンパニオ！仲間とともに」

－平成29年度岩手県特別支援学校体験記録集－ 第26集

発行	平成29年10月
発行者	岩手県特別支援学校連絡協議会 会長 民部田 誠（岩手県立盛岡視覚支援学校長） 〒020-0061 岩手県盛岡市北山1丁目10番1号 TEL 019-624-2986
編集	岩手県立宮古恵風支援学校 校長 下平 弥生 他作成事務局職員一同 〒027-0097 岩手県宮古市崎山第5地割88番地 TEL 0193-63-0400
協賛	公益財団法人 日本教育公務員弘済会岩手支部 いわてひまわり号基金
印刷・製本	あべ印刷株式会社